

令和6年度 藤枝明誠高等学校 年間学校評価

※評価基準 A：十分に実践されている B：ある程度実践されている C：不十分である D：わからない

教育目標	「学園は、教える者と教えられる者とが、相互の信頼によって相互に生かされる精神的な共同体」という理念の下、知・徳・体を錬成し、調和ある人間像を確立する。								
経営方針	「自律的な精神」、「思考力と創造的な知性と技量」「自然愛や人間愛を大切にする豊かな情操」を培う。 また、日本人としての美德を育て、実践的な社会性を養うとともに、国際化・情報化社会のフロントランナーとして、社会貢献できるフェアなリーダーとしての資質を培う。								
重点目標	Ⅰ 学習指導の充実		Ⅱ 進路指導の充実		Ⅲ心豊かでさわやかな生徒の育成		Ⅳ 広報・渉外活動の充実	Ⅴ 教育施設・設備の活用	
	項目	令和6年度具体的な方策または評価項目を評価する具体的な指標 ※【 】は数値的目標	令和5度実施結果(成果は○、改善すべき事項は◇) ※丸数字は左欄丸数字の項目に対応	学校自己評価			学校関係者評価		
				評価	教員コメント（73名）		評価	学校関係者評価委員コメント（8名）	
Ⅰ 学習指導の充実	授業改善への取り組み	①生徒の意欲が高まるような分かる授業を実践するとともに授業改善に努め、授業アンケートの結果向上を図る。 【授業満足度調査(生徒)を年2回実施】 【生徒の授業満足度(満足+どちらかといえば満足の比率)95%】 ②各科、各クラス間、各教員間の指導の格差の改善を図る。 ③定期テスト後に教科会議を開催し、学力定着度の検証及び教科指導の改善を行う。 ④各教科でテーマを設定した研究授業を行い、授業力の向上に努める。	①○授業満足度調査を2回実施し、【生徒の授業満足度(「満足」+「どちらかといえば満足」の比率)】は目標値に届かなかったものの、93.5%(R4)から94.1%に向上し、より目標値に近いものとなった。また、授業満足度調査の結果の教員へのフィードバックも実施された。 ②◇各科、各クラス間や教員間の指導の格差がまだあるため、教科内での検討・指導等、更に改善が必要である。 ③○教科会議を毎週行える状況(時間割)があり、指導の改善のための教科会議が実施されている。 ④◇テーマを設定した研究授業が実施されなかった。	A21%	・教員自身の学力向上がまだまだ必要であると感じる。大学入試に対応できるだけの実力向上を図りたい。 ・単位数および時間数の減少により、どうしてもならない部分が出てきている。 ・さまざまな取り組みがなされていると思います。 ・新課程への移行、新科目が出てくる中で 共通テスト対策を含めて授業内容の改善が図られてきたと考える。 ・共通テスト対策と主体的・対話的で深い学びの両立をどう実現するかを検討しなければならない。 ・授業については、普通科総合コースの10月以降の検証と1月の高校3年生のテストの導入など卒業後の学力も考えたい。 ・教員間の教科に関する情報交換、研修の機会が少ない。 ・今年度は、各教科の公開授業、研究授業への取り組みがなされなかったのは…。切磋琢磨が必要不可欠。 ・研究授業については実施されているのか分からない。全体には実習生の研究授業以外実施の案内はなかったと記憶している。 ・授業アンケートの実施がされたが、フィードバックがなく不十分であった。LHR等を利用して一斉に行う時間を共通で取り、速やかなフィードバックにつなげる等、工夫が必要である。		A0%	・生徒の満足度94.1%は素晴らしい。 ・授業満足度調査の結果の数値は高い。多忙な毎日だと思いますが、学校全体で取り組んでいただき更に向上することを期待する。 ・教員同士の情報交換を積極的に行ってほしい。 ・毎日忙しい中ですが、先生方の更なる教科指導の向上のためにも、研究授業の実施を行いたい。	
	学力の定着と向上に向けたきめ細やかな指導	①放課後プロジェクトや「9時まで学習」の一層の活性化を図る 【9時まで学習参加率65%以上目標】 ②予習、復習、宿題の提出・点検指導等の徹底を図る ③英語検定指導等を継続して組織的に行う 【英検2級300名以上、準1級20名以上】 ④学力の基礎である国語力(文章読解や表現力)の向上のための取り組みを行う 【論理エンジンの有効活用・指導】 ⑤国際教養教育を推進する ⑥普通科生徒の学力・学習意識向上のための指導を実施する ⑦大学入試に対応した問題を定期テストに導入する ⑧家庭学習を充実させるため、オンデマンド教材の配信が実施できるように環境を整備し、配信を実施して学力の定着と向上に努める。	①◇図書室における放課後プロジェクトの参加は前年並みであった。 ○例年以上に職員室及び職員室前フロアで、積極的に個別指導を受ける生徒は増加した。 ○「9時まで学習」の参加率は、57%で前年度の64%より減少したが、数学・英語における特別補講の参加者は盛んであった。 ②○各教科・各学年において、細かな指導が実践された。また『明誠ダイアリー』を利用した学習習慣確立のための指導が各クラスで実施された。 ③◇【英検2級取得者数259名、準1級取得者数17名】前年より英検2級取得者数が28名減少、準1級が2名減少した。上位の級の受験推進、英語学力の全体的な底上げが必要である。 ④○論理エンジンによる指導が実施されているが、引き続き国語力向上に努めたい。 ⑤◇Dream Gateway Program の実施、留学生の受け入れが行われ、グローバルな視点の涵養がなされたが、国外からの	A25%	・9時まで学習に加え8時まで学習が実施されるようになった。 ・9時まで学習に加え、高校1、2年生の8時まで学習にも積極的に生徒が参加していた。職員室前で個別指導を受けたり、自主学習に取り組む姿もたくさんみられた。 ・9時まで学習や放課後講座を利用している生徒が多いのは良いと思いました。 ・9時まで学習をもっと職員全体で回せるようにしてほしい(一部先生で常に1週間のローテーションになっていた)。 ・英検取得も人数だけでなく2級、準1級と高い級に合格する生徒が多くなっている。 ・日本全体が徐々に外国人を受け入れる中で、生徒たちが適応できるよう、実践的な英会話の機会を増やすことが重要です。高校生は文法や読解を学んでも、話すことには自信がありません。どんなスキルも使わなければ失われま す。文法を知っているだけでなく、実際に英語を話し、使うことが本当の習得につながるのです。 ・授業の種類、担当教師、コースによりバラバラであるが、概ね良い指導ができている。 ・教科担当者がその学年部にいなくても、模試の結果等を共有するしくみがある といいと思う。 ・学力の三要素のうち、まだまだ知識技能へ偏りがち。		A12.5%	・細やかなご指導をされていると察する。生徒のモチベーションによい影響を与えている。 ・9時まで学習、8時まで学習のおかげで、学校での勉強が学力の定着に結びついている。 ・塾に行かなくても学校で十分に学習できるという入学前の話のとおり、大学入試までの指導がしっかり最後まで行われていた。 ・大学へ行っても自分で学習する力がついた。 ・(8時・9時まで学習への積極的な参加等)生徒のやる気のある姿・熱意がある以上、たいへんですが先生方にもご協力いただき、一緒に頑張ってもらいたい。 ・明誠ダイアリーを活用していない。 ・英語を実際に話してみる機会を多くの生徒が持てるようなら、私立としての特色になる。	

		⑨ICTを利用したオンライン授業が実施できるように環境を整備し、休校時等のオンライン授業実施に備える。	教育訪問団との交流がまだ復活しておらず、今後の復活に期待したい。 ⑥◇各学年、教科毎に対応を行っているが、統一した計画による実施には至らなかった。 ⑦○各教科において、大学入試共通テストに向けて定期テスト等の工夫を行っている。 ⑧○スタディサプリを全生徒が使用できる状態となっており、高校では到達度テストによるフィードバックも行われた。 ⑨○WiFi 環境及びプロジェクターの全教室設置が行われ、授業時に活用された。また、休校時等にオンライン授業配信を実施する環境は整った。	・定期試験や模試の結果を復習として徹底させることがなかなかできないことが多かった。3年生は次から次へと模試や試験があったので、そこまで復習できる機会も少なかった。 ・共通テスト(社会)では教科書では教えきれない部分(幅広い知識教養・語彙力など)が失点につながっていたように感じる。 ・共通テスト対策として暗記に終始することのない問題演習の方法などを生徒たちに伝えていく必要があるだろう。 ・各々の先生が個別によく対応している。 ・タブレット端末や、デジタル教科書などを使用する教員が多くおり、ICT 教材のスキルを向上させることができた ・プロジェクターの使用等、工夫されている。 ・ICT教育を推進していく上で、教員の授業実践に向けた研修の機会は不可欠です。他校でも早期に実施した例を聞いています。本校でも宜しくお願い致します。 ・ICT を用いての調べ学習、資料のまとめ等を、授業計画から取り組むことができた。 ・授業の種類、担当教師、コースによりバラバラであるが、概ね改善できている。 ・電子黒板やタブレット、WiFi など、整備が進み、大分定着してきたように思います。		・英検に合格するだけの学力が不十分である。 ・テスト結果をさくら連絡網を使って知らせてくれると良い。 ・先生方に指導力の差があるのではないかな。 ・教育現場での ICT 利用が必須となっており、Chat GPT や AI などの使用も視野に入れてほしい。	
Ⅱ 進路指導の充実	進路希望の達成に向けたきめ細かな指導	①進路講話や個別面談、総合的な学習等(キャリア教育の推進を含む)により目標設定と進路意識の早期確立を図る ②教員の教科・進路指導の力量向上を図る ③教科検討会で模擬試験結果の検討を行い、生徒各個人に対応した指導を行う ④生徒の満足度の高い進路指導を行い、大学への現役合格達成を図る 【現役合格 95%】	①○高校1年生の進路ガイダンスでは河合塾「R キャンプ」を使い、文理選択研究の一助とした。後期は外部講師による大学選びについて講演を行い進路意識の高揚に役立てた。 ○高校3年生対象の大学説明会、高校2年生対象の学部・学科説明会では45 大学に来校していただいた。生徒たちは熱心に説明を聞き、進路目標の設定・進路意識の高揚に大きな意義があった。 ○高校2年生で活用した『志望理由書・マスターノート』は、新入試に対応する教材として今後も活用したい。 ②◇新課程入試についての広報を心掛けたが、研修会の必要があった。 ③◇外部模試後の分析・検証の機会が持てなかった。 ④○四大志望者の大学現役合格率は98.3%で目標の95%を上回った。また浪人も5名(在籍数の2.0%)で「現役主義の明誠」の目標に近いものとなった。	A 37 % B 55 % C 5 % D 3 %	・総合選抜型試験や推薦型試験に対応するために面接指導・小論文指導・プレゼンテーション作成指導等今まで以上に対応している。 ・総合型、学校選抜型入試への手厚い指導が見られた。 ・総合型選抜や、学校推薦型選抜への指導が充実し始めた反面、それに縋ってしまう生徒、保護者も増えてしまったような感じも見受けられた。 ・各先生方の献身的な尽力により、小論文指導、面接指導、9時まで学習や受験前指導がなされた。 ・担任を中心にした進路にかかわる相談活動が丁寧に展開されている。また、面接や小論文指導もかなり手厚い指導がされている素晴らしい。 ・面接指導や小論文指導など先生方が対応している。 ・小論文指導が昨年に比べ積極的に取り組むことができた。 ・共通テストや難関大への対策が十分に実施されていた。 ・9時まで学習や面接練習など、生徒の意欲に応える指導が素晴らしいと思います。 ・今年度は3年生に向けてのプロジェクト(英・国・数のいずれか)がほぼ毎日実施されていた。 ・生徒がしっかりと大学研究する(進路研究する)ことが多くなりつつあるのは先生方の啓発活動のおかげであると考える。 ・担任を中心に個々に合わせた取り組みがなされていると思います。 ・授業の種類、担当教師、コースによりバラバラであるが、概ね良い指導ができている。 ・地元や確実に受かる安定志向だけでなく、難関大を目指す挑戦志向をいかに作っていくか、が今後の課題と思います。 ・学年として丁寧な進路指導が行われている。特に学年間での進路指導の情報共有が関連に行われたことが良かった。 ・本校の特徴と言うべきもので生徒募集にも直結する。さらにきめ細やかにしたい。	A 25 % B 75 % C 0 % D 0 %	・進路を決めるスタートラインである進路研究がしっかり行われていることは心強い。 ・丁寧に生徒に寄り添った対応がなされていると感じる。 ・(進路相談、小論文指導、面接指導等)たいへんなご努力に感謝します。ぜひ続けてほしい。 ・担任教員が個々に手厚い指導をしている。 ・進路指導の話が全く保護者に伝わってこない。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜で先に大学が決まっている生徒と、一般入試・共通テストで最後まで頑張る生徒への配慮がほしい。 ・総合型選抜や学校推薦型選抜に対する指導が充実してきているのはとても良いことだが、一般選抜の指導も継続しての対応を願う。 ・面接・小論文指導の期間は、一般受験をする生徒へのサポート・指導が少ないのではないかな。 ・パワーポイントでのプレゼン等、国際教養で学んだことが大学受験につながった。 ・難関大学に挑戦する生徒にはもっと力を入れてもらいたいのと、周りの生徒の環境にも配慮をしていただきたい。

					・進路関係の書類(生徒の書いた面接質問事項など)をもう少しアクセスし易いように整理するべきである。 ・指定校推薦の情報が学級担任に正式に来るのが9月以降である。少し早めるように工夫してほしい。		
	難関大学等の合格に向けた指導	①国公立大学及び難関・中堅私立大学に合格できるような学習・進路指導を推進する 国公立大学の総合型・学校推薦型選抜にも積極的に挑戦する(学研小論文講座の活用) 【第3学年 進路目標】 東大・京大・国公立大医学部→複数合格 旧帝大→二桁合格 国公立大→80名以上 (静岡大・静岡県立大・静岡文芸大→40名以上) 早・慶・上→10名以上、 GMARCH・東京理科・関関同立→80名以上 ②旧帝プロジェクト(上位層の強化) ③共通テスト対策講座 ※②、③共に「9時まで学習」の時間を活用 ④医進プロジェクトで国公立大医・薬等の指導強化	①◇2023年度入試の国公立大学合格数は、総合型選抜・学校推薦型選抜20名、前期32名、中後期13名で計65名であった。在籍数に対する国公立合格者の割合は20%であった。主な内訳は東京大1、国公立医学部2、そして地元の静岡大11、静岡県立大10等であった。難関私大は、早稲田大4名、上智大2、東京理科大4名、明治大3名、青山学院大2名、立教大5名、中央大6名、法政大3名、関西大2名、関西学院大4名、同志社大4名、立命館大6名、計45名であった。 ②○◇最難関大学に挑戦する学力トップ層への指導は、旧帝プロジェクトで行ったが、ノウハウを継承するためにも、中堅・若手職員も参加しチームでの受験指導体制を構築すべきである。 ③○各教科とも放課後の個別指導には積極的に取り組んで頂けた。また「9時まで学習」を利用して、英語・数学で定期的に共通テスト対策を意識した講座を実施して頂いた。 ④○国公立立合わせ医学科合格2名、薬学16名であった。	A37% B49% C11% D3%	・特に内進生がイニシアティブをとるかたちで、現3年生の実績をリードすることができた学年でした。 ・選抜クラスを中心に、きめ細やかな指導が実践できていると思います。 ・旧帝プロジェクトを充実させるべく、関われる先生の増員が求められると思います。 ・3年生は旧帝プロジェクトや共通テストプロジェクトなど組織的に行ったのではないのでしょうか。 ・放課後プロジェクトや補講も実施されたが、一部の先生方に偏っているようにも思えた。 ・授業の種類、担当教師、コースによりバラバラであるが、概ね良い指導ができている。 ・以前に、難関大学に進学した卒業生を招いての座談会(山本雅道先生主催)がありました。不定期実施ですが、卒業生の協力を促してはいいかがでしょうか。 ・堅実な志向が強く、難関大学への意欲をどのように高めるかが課題。 ・コロナ禍からの脱却や共通テスト科目増加などから関東私立の人気の復活、これまで以上に厳しい戦いになったように感じる。特に本校の学力中位層が思うように結果を出せていない。 ・次年度からは私大と地方公立(3教科受験可)をセットで受験することを強調していく必要があるだろう。 ・生徒たちが海外での高等教育を目指せるよう支援し、奨励することも重要です。私たちの目標は、生徒たちをグローバルに活躍できる人材へと育てることです。国際競争力を持つことは、日本人としてのアイデンティティを失うことではなく、むしろ世界の動向を深く理解する力を養います。このような生徒が増えれば増えるほど、日本という国もさらに強くなるでしょう。知識こそが力です。	A25% B75% C0% D0%	・先生方の熱心なご指導は生徒にとっても保護者にとっても心強い。 ・生徒の努力と先生方の組織的できめ細やかな指導により実績が積み重ねられてきているのは素晴らしい。 ・(卒業生を招いての座談会は)大変いいことだと思う。「卒業生の力」は必要である。必ず今の生徒の心に響くと思う。
目 心豊かでさわやかな生徒の育成	社会性や道徳心の育成	① 礼節を重視し、様々な場面でマナーや社会的規範意識を育成する。 正門での礼や予鈴黙想の励行、HRでの朝終礼時の指導・国旗、校旗の掲揚指導・校長講話等。 ② 校内外の美化や教室等の整理整頓に対する指導 ③交通ルール、マナーの指導を通し、危険察知と思いやりの心を育み交通事故防止を図る。 【交通事故10件以内】日常の交通ルール指導・自転車マナーアップ教室・街頭交通指導 安全な自転車使用のため点検整備は、自転車整備士によるものとし、TSマーク等を利用。 ④德育を強化し、思いやりの心を育成するとともに問題行動の発生を防止する ⑤生徒の観察、生徒面談、いじめアンケート等を活用して、いじめ防止に取り組む。 【いじめアンケート年3回実施・学校生活アンケート実施・保健室相談箱の設置】	①礼節指導。全体的に校内での挨拶等は良好である。 ◇校外での社会道徳や 立ち居振舞い等の一層の指導が必要である。 ②教室の整理整頓はHRにより差はあるが、担任の指導により生徒の意識向上が見られる。 サッカー部、陸上部、野球部等の清掃活動は、校内や学校周辺の清掃・除草等環境美化に貢献した。 トイレ清掃・教室内整理整頓・水回りの清掃指導を実施した。 ③職員による登校時の街頭交通指導により交通安全意識の向上も見られた。生徒課による下校時の街頭指導の実施。 命のメッセージ展実施5/18～5/19 ◇交通マナーについて、地域住民から苦情が時折寄せられた。主に一時停止不履行・併進等、先生方の指導が浸透しない生徒もあり、繰り返しの指導が必要である。 ◇交通事故は、5年度は22件に増加。 ほとんどが軽微な事故であるが、重大事故に繋がらないように日常の指導継続。自転車施錠点検を実施。施錠率率は向上したが、継続指導が必要。	A25% B57% C15% D3%	・挨拶は部活動の生徒を中心によくできている。 ・朝の挨拶が、例年以上にできたのではないのでしょうか。 ・学年部以外にも部活動で良く指導をしていただいていると感じる。しっかり挨拶ができる生徒が多いことが本校の強みである。 ・部活動ではよく指導されているが、普段の生活から指導をしたい。 ・教室の整理整頓は時々乱れるクラスもあるが全体としては高いレベルで維持されている。 ・いじめアンケート・生活アンケートの実施のほかにも職員による対応が見られ、些細なトラブルにも対応できている。 ・高校3年生が、卒業式での厳粛さを醸し出し、それに相応しい姿勢が範となつて、後輩生徒たちに伝えたのではないのでしょうか。 ・講話を通じて、生徒の心に問いかけることができるとさらに良い。 ・社会常識が少しずつ希薄になっている昨今、今まで以上に指導の必要性が増していると思います。 ・朝の打ち合わせが長く、生徒の「予鈴黙想」指導までに担任が教室に入れないので、改善が必要。	A14.3% B85.7% C0% D0%	・学校へ行って生徒に会うと気持ちが良い挨拶をしてくれる。 ・気持ちの良い挨拶は本校の長所であるから、文化として引き継いでほしい。 ・校内や学校周りの清掃はよくできている。 ・軽微な事故ではあるものの、交通事故の件数が増加していることは心配。注意喚起を引き続きお願いします。 ・交通マナーの悪さは事故につながるもので特に注意を呼びかけ、指導してほしい。 ・学習指導に力を入れると同時に、この分野でも同じように魂を込めて繰り返しの指導をお願いします。

		⑥スマートフォンの使用法など SNS についての啓発を行い、問題発生を防止する 【「スマホ安全安心講座」実施・「スマホの 17 の約束」配布と家庭での約束作り(地区会)】 ⑦教員の生徒指導力、クラス経営力向上のための研修(救急救命法、生徒指導、スマホ安全安心講座)の研修を実施する	④◇問題行動・6 件 10 名 停学 2 件 2 名・謹慎 2 件 6 名・校長戒告 1 件 1 名・教頭戒告 1 件 1 名 ○各学年とも個々の生徒指導は当然あるが、全体的には落ち着いた学校生活を送っていた。 ⑤○いじめアンケート年 3 回・学校生活アンケートの実施。いじめに関する調査、学校生活アンケートは、いじめの防止、友人関係の改善や生徒指導に活用した。 ⑥スマホ等の使用は、多くの生徒はルールを守っているが、校内・登下校中のルール違反等の生徒も見られるため、日々の指導を継続。 ⑦救急救命法の実施による緊急時の対応・いじめに関する研修により未然防止と早期発見と対応。 スマホ安全安心講座の実施によるスマホ利用の啓発。				
	基本的 生活習慣の 確立	① 欠席や遅刻等の減少を図る。 ② 正しい身だしなみの指導を徹底する 学年全体校風指導年 6 回実施 ③ 制服等の着用指導を徹底する ④ 基本的生活習慣の指導を職員の共通理解のもとに実施する ⑤ 校則の遵守 ⑥ 感染症等対策の実施・健康管理指導 手洗い、うがい・手指アルコール消毒・教室の換気等の習慣化を図る 保健室便りの発行。毎月 1 回さくらメールを利用	コロナ渦による欠席・遅刻の増加はコロナ渦以降も減少に至らなかった。 ○学年校風指導を 6 回実施。服装面で大きな乱れはない。 ○基本的な生活習慣はある程度確立されていた。 ・制服等の着用状況は良好である。 ・体育、清掃・作業時以外のジャージ着用は見られない。 ○生徒は校則をおおむね遵守していた。 ・スマホ等の指導に関しては日常の継続指導が必要であり、慣れからルーズにならないよう注意。 ○各HRの手指消毒薬の設置継続と教室の換気等の指導継続。	A 27 % B 63 % C 7 % D 3 %	・極数名の生徒による指定場所以外でのゴミ捨て、数名の女子生徒の制服着用の乱れがあり残念であったが、全体指導で改善されている。 ・朝礼前や終礼後の教室や廊下でスマホを利用している生徒がみられた。校舎内ではスマホ使用不可、という校則を徹底する必要がある。 ・朝礼、終礼をしっかりとやっているのが良い。 ・遅刻指導について現状口頭注意すること以外何もできていない。何かしら手を加えるべきではないかと思います。 ・生徒の終礼後の過ごし方が気になり。すぐにスマホを触りたがる。 ・十分な指導が行われている。 ・多くの生徒がよく取り組んでいる様子が見られ好感がもてるが清掃・挨拶等生徒により差が大きいことが見受けられる。 ・②、③については徹底されているとは思えない。特に女子生徒の身だしなみ等は問題であると思います。全職員が危機感を覚え、日常的にきちんと指導する体制を整える必要有り。	A 0 % B 100 % C 0 % D 0 %	・季節的なものもあるかと思うので、遅刻・欠席等の状況(学年・男女)を数値化して表示してほしい。 ・(制服の着用、身だしなみ等)徹底できるよう全力で指導してください。今の生徒が大人になって立派になるために。 ・身だしなみの悪い生徒を見たことがない。身だしなみが悪いと全体的な印象が悪くなるので指導を継続してほしい。 ・他校と比べればスマホの利用や制服の着用に問題があるように思わない。 ・生徒によって差があるが対話しながら引き続きご指導いただきたい。
	部活動の 充実	①学習と部活動の両立を一層推進しつつ、生活面での指導も強化することにより、心身を錬磨し、自律的な精神と協調性を養う 【部活動加入率 80%以上】 ②県大会や全国大会への出場及び各大会での上位進出を果たす 【県大会出場～全ての部、全国大会出場～4 部】	○多くの生徒が部活動に加入している。部活動・同好会加入率約 80% ○各部のテスト前の集団学習が活発に行われた。 ○各部活動生徒が挨拶・行事等、先頭に立って集団をまとめ積極的な活動が行われた。 ○大会・試合の結果のみならず、各部活動を通して人間形成にしっかりと取り組んでいる。 ◇部活生徒の登下校時の服装、早朝時の自転車走行注意 ・「併進、右側走行、一時停止」について指導。 ・早朝時の登校服装注意。 ○チアリーディング部の全国大会 1 位、バスケットボール部の全国高校総体ベスト 8、全国高校選手権大会 3 位と全国区での活躍があった。野球部は夏の大会県高校選手権大会 3 位、県高校秋季大会優勝、東海地区大会 3 位と甲子園まであと一歩であった。陸上競技部は 3 種目での東海地区大会での出場等活躍した。射撃同好会の全国大会出場。サッカー部は、県高校選手権大会ベスト 8、柔道部の県総体・県選手権大会個人 100 kg 超級、無差別級の 3 位等県大会での活躍があった。多くの部が県大会に出場する活躍を見せた。	A 60 % B 36 % C 4 % D 0 %	・大変立派な成績や活動だと思いました。部活動を指導する先生方には頭が下がります。 ・運動部、文化部ともに積極的な活動が見られ、各部活動で好成績を上げている。募集や進路に大きくつながっている。 ・熱心に頑張っています。 ・日常の練習に真剣に取り組む姿が、好印象を受ける。個人課題に取り組みながら、チームでの統一感を大切にしている。 ・部活動での活躍は学校の活気にもつながるので、とても充実しているように思えた。文化部系の部活動ももっと盛り上げられるようにしたい。 ・今一歩の実績でしたが、人間形成という目でみると、良くやったのではないでしょう。 ・特定の部活は実績を出しているが、差が激しい。各部共通して、何を育てたいのかを共有できるといい。 ・文化部・運動部問わず部活動は充実していると思う。ただし、生徒達にあくまで勉強が中心であることを植え付ける教育も必要。 ・多くの部活動がよい成績を上げている中で、自分には敷居が高すぎると感じている生徒がいることも事実です。 ・部活動は充実している。生徒募集においても学校への貢献度が大きい。	A 75 % B 25 % C 0 % D 0 %	・勉強と部活動を両立させている生徒が多いことは藤枝明誠の特色であり強みでもある。 ・部活動の頑張りや、生徒たちはもちろんのこと、地域の全体の皆が見ています。毎回の活躍に私自身も元気をもらっている。 ・部活動では挨拶がしっかりしていてとても良い。 ・チアリーディング部やバスケットボール部を筆頭に部活動は大変立派な成績を残していてすばらしい。サッカー部の活躍に期待したい。 ・各部活で好成績を残していることは素晴らしいが、体育館の雨漏り等、部活を行う環境があまり良くない。

			文化部では、棋道部が県高文連団体戦で優勝し全国大会に出場。MLAC は英語ディベートでの全国大会に出場、予選リーグを突破し静岡県勢では初のトーナメントに出場するなど活躍した。また、吹奏楽部もコンクール等での活躍があった。 ○【県大会出場:ほとんどの部 東海地区大会:5 部 全国大会出場:5 部】 ・部活動ではないが、馬術で国体出場・上位入賞等個々の生徒の活躍も見られた。				
Ⅲ 広報・渉外活動の充実	広報活動による学校理解の促進	① 広報誌の発行、ホームページの活用等様々な手段を通して、本校教育に対する保護者や地域社会の理解を深める。 ②ホームページ(HP)の更新を積極的に行い、効果的な情報発信を行う。 【年間アクセス数 600,000 アクセス】 ③学校説明会参加者を増やす情報を提供する。 ④本校理解がより深まり、募集に効果的な内容にするために、広報誌等の見直しを行う。 ⑤地域の自治会等への情報提供や学校行事への招待等を積極的に行い、学校理解の促進と広報の推進を図る。	①○「明誠ニュース」「進路だより」保護者会広報誌「初心」など予定通り発行した。 ○部活動・同好会の様子を紹介し、中学生の多様性に対応できるように努めた。 ○保護者会地区会で出された質問や要望への回答を文書で配布した。 ②◇HP のアクセス数が減少した。HP の更新を積極的に行い、内容の工夫も行いたい。また、スマホによる閲覧が増加しているので、見やすさや操作性への配慮をしたい。 ・2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日のアクセス数 532,195(－10,829) ③○学校説明会への参加者数(1 日体験入学、直前相談会を除く)は、例年並みを確保することができた。 ・H3・1,155 人 H4・1,305 人 H5・1,285 人 20 人の減。 ④○見直しを行ったほか、新たに国際教養コースのリーフレットを発行、配布した。 ⑤○入学式、卒業式、文化祭、体育大会に自治会役員を招いた。	A 26 % B 56 % C 14 % D 4 %	・子どもの減少と不況、物価高騰で私立学校には厳しい状況下だが、積極的な広報活動により、説明会や受験者の一定数を確保している。 ・大きな転換期を迎えた明誠を広く知ってもらえていた。 ・地域の皆様からの支持、応援をもっと増やしたい。 ・一部の教員に負担が集中しているため、改善が必要と考える。 ・SNS などの普及により、ホームページなどの充実、更新が要求されているので、正しい情報をアップデートできている。 ・ホームページにもっと学校生活の様子や、明誠での学校生活の楽しさを掲載できるともっと良いと思う。SNS の活用も必要ではないかと感じた。 ・藤枝明誠のホームページが以前よりもよく更新されて担当者のご苦勞が偲べれますが、他の私学に比べ発信力に劣ります。 ・中学校訪問や塾訪問などを通じて広報活動はよく行われている。中学生たちに本校の良さを直接訴える広報活動(SNS の活用など)を検討したい。 ・今回の募集状況から、地元の中学生在が本校を単願として受験しない状況と、国際教養コースの在り方について議論、検討が急務だと感じました。 ・令和の時代と、本校が大事にする精神・方針・校則を上手に混合させる必要があると感じました。 ・新コース設立に向けて動き出しましたが、周知はいまだ不十分かと思います。 ・学校として募集に対する意識を高めたい。	A 0 % B 87.5 % C 12.5 % D 0 %	・「生徒 1 人 1 人、自覚と誇りを持って毎日楽しく学校生活を送ること」が一番の広報活動ではないか。その心を育ててください。 ・明誠の「イメージ」をどのように外部へ発信しているのか、教員 1 人 1 人が理解しているべきだ。 ・公立と違って「明誠はこういう学校です」のブランドイメージを継続させていくために、生徒にもちゃんと説明したほうがよい。体現するのは生徒で、外部は生徒を見て判断する。 ・以前よりもホームページは良くなっているが、まだまだ見たいと思う情報・内容が少なく、もう少し工夫が必要である。 ・気をつけなくてはならない点も確かにあるが、SNSを活用してイメージアップや認知度向上を行った方がよいのではないか。特に新コースの認知度向上には有益である。
	積極的な渉外活動の実践	①小中学校への積極的な学校訪問等により募集の拡大を図る。併せて、入学者の増加に有効な方策を具体的かつ速やかに実施する ②焼津・藤枝・島田・榛原・小笠・袋井の小中学校を対象とし、組織的に募集活動を展開する。 ③学習塾への訪問を行い、募集の拡大を図る ④県外募集の充実を図り、有為な生徒の確保に努め、入試内容・方法について見直す。 ⑤「一日体験入学」「入試直前相談会」の充実、取り組みの強化を図る。 【学則定員の確保】	① ○年間の生徒・保護者の総動員数は 4,321 人となり、昨年度より 94 人増加した。 ②○志太・榛原・小笠・袋井地区への中学校訪問を職員で分担し、3 年主任や進路指導主事と直接面談して募集拡大を図った。また、静岡地区では重点校を絞り募集活動を行った。さらに、学習塾への訪問を積極的に行った。 ③○副校長が学習塾への訪問を積極的に行った。 ④◇福岡奨学生入試では、単願合格者はいなかった。学習特待生の入学につながるような方策を検討する必要がある。札幌奨学生入試は、受験者がなく、札幌一般入試は、受験者が 2 人であった。 ⑤1 日体験入学の参加者は 2,483 人で昨年度より 101 人増加した。入試直前相談会の延べ参加者数は 449 人で昨年度より 91 人減少した。	A 33 % B 50 % C 12 % D 5 %	・渉外課長をはじめとした渉外課職員と勧誘のために活動する部活動の先生方や塾を訪問される先生方には頭が下がります。 ・新コース設立と名称変更、本校の特色の PR を積極的に行うことができた。 ・一日体験入学の実施は 7 月末から時期を再考した方がい いと思う。 ・オープンキャンパスを外部向けオープンキャンパスに実施方法を切り替えたほうがい いと思う。 ・たくさんの説明会や、中学校での説明会などやっていただいた渉外課の先生方には頭が下がります。ありがとうございました。 ・多くの先生方が積極的に渉外活動に従事しています。 ・特定の教員のみ対外での説明会を行っている。若手教員も含め、学校を宣伝したい。 ・中学校訪問等での、積極的なコミュニケーションを図ることができた。 ・渉外活動は年中積極的に行われている。入学後の生徒に対して本校入学を決めた(訴求力の高い)イベントを調査し、渉外活動の内容をさらにブラッシュアップしたい。 ・現在の状況に合わせた活動を。 ・公立中学校の教員をしている卒業生に生徒募集の協力の輪を広げてみてはいかがでしょうか。更に、OB会の活動がここに加わると良いです。	A 25 % B 75 % C 0 % D 0 %	・中学校、学習塾へ積極的に訪問をし、しっかり取り組んでいると感じる。 ・どのように渉外活動が行われているか、職員間でどの程度共有されているか。 ・「積極的に」とあるが、何回程度訪問等したのか。 ・学習塾は公立高校へ受験させる考えが強いので、私立高校も考えてもらえるように塾への訪問も良い。

